

南仏治安情報（3月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）ジハーディスト関連：カウンターテロ志願者のシリア入り

近頃ジハードに参加する目的でシリアやイラク入りする者が増える一方で、キリスト教徒同胞を護るために同地に赴く者も数ヶ月前から現れている。彼らは現地でキリスト教自警団に所属し、銃器取り扱いの訓練を経てジハーディストと対峙する由。

（2）ISIL：少年によるイスラエル人の「処刑」

3月中、ISILはイスラエル情報機関のために活動したとの理由でアラブ系イスラエル人を処刑する動画をネット上に載せた。処刑に当たったとみられるのは12歳くらいの少年で、被害者の額部をけん銃で狙撃し、その後も遺骸に数発撃ち込んだ由。映像には、本年1月パリで発生したユダヤ食料品店襲撃事件に触れ、イスラエル人を襲ってエルサレムを征服すると仏語で脅す男が登場している。予審捜査を担当するパリ検察庁テロ対策本部では、これら2名は2012年にトゥールーズでユダヤ人学校テロを起こしたモハメッド・メラの義兄弟とその義理の息子ではないかとみて捜査中である。

（3）テロ対策法：テロ礼賛サイトに対する閉鎖命令

3月中旬、仏政府はテロ行為を礼賛する内容のウェブサイト5カ所を特定し、情報・通信技術に関連する犯罪集往対策局(OCLC-TIC)を通じて接続業者に対し24時間以内にサイトを閉鎖するよう命じた。本件はテロ対策法の初適用例となった。対象とされたのは、斬首映像を流したり「イスラム国」の宣伝を行っていたサイトで、政府はこれと同時に児童ポルノ関連5サイトに対しても閉鎖命令を下した。

（4）ジハーディスト関連：シリア渡航を志した女性の身柄確保

3月初旬にジハーディストとしてシリアに向かった22歳の女性が、23日にシリア国境に程近いトルコ国内にいるところを当局に発見され身柄確保された。この女性は昨年末からインターネットを通じてイスラム過激主義に感化され、シリア行きを決意していたもの。同女は所要の手続きを経た後サン・トロペの自宅に戻される予定である。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）ブーシュ・デュ・ローヌ（BDR）県内で発生した、対立抗争とみられる殺人事件

2日朝方、マリニャーヌのカフェで友人とコーヒーを飲んでいたら36歳の男性が、突如現れた2人の男によるカラシニコフの掃射を受けて死亡した。この恐ろしい事件はわずか30秒の間に発生し完了した。警察は被害者に薬物販売の犯歴があったことから、薬物絡みの対立抗争とみて捜査を継続している。

（2）BDR県 Port-de-Bouc で発生した、対立抗争とみられる殺人事件

3日午後、BDR県で今年4件目の殺人事件が発生した。被害者は24歳の男性で、シテ内にて何者かに乱射された自動小銃の銃撃を受けて死亡した。発生現場が麻薬取引で悪名高い地区であり、同じ日の午前中には被害者の所属するグループと対立グループ間で薬物密売絡みの乱

闘事件が起きていたことから、警察は対立抗争とみて捜査を進めている。

(3) マルセイユで発生した、侵入手口等不明の殺人事件

20日朝方、10区フィフ・トゥリン通りにあるアパート自室内で、毛布にくるまれた78歳女性の遺体が発見された。司法警察によると遺体の顔面には殴打痕があり、少なくとも事故死ではない由。しかし室内に何者かが侵入した形跡はなく、隣人も異変に気付かなかったことから犯人の侵入・脱出経路については不明なるも、犯人特定に向け捜査を続けている。

(4) マルセイユで発生した、侵入手口等不明の殺人事件(その2)

21日、3区クロヴィス・ユゲ通りにあるアパート自室内で48歳女性の遺体が発見された。遺体には暴行された痕があり、死後数日経っていることが判明したが、前日に10区で発生した老女殺害事件同様、犯人の侵入痕跡もなければ目撃・聴取情報もなく、手口不明なるもこれら2件が同一犯の犯行である可能性も浮上した。とはいえ現状では被害者2名を結びつけるものは何もなく、警察は被疑者不詳の殺人事件をまた一つ抱えることとなった。

(5) コルシカ島オート・コルス県カルビで発生した、殺人未遂事件

30日昼過ぎ、海水浴場にいた49歳男性が何者かに銃撃される事件が発生した。男性は頭部と胸部を撃たれ近くの病院に緊急搬送され、後にバステアの病院に転院するほどの重傷を負った。憲兵隊は、本件が流しの犯行か怨恨関係なのかを判断すべく初期捜査を開始した。

● 強盗(邦人被害なし)

(1) マルセイユで発生した、路上強盗事件

12日の夜、10区 Saint-Tronc にあるシナゴーク(ユダヤ教会)前で、教会から出てきたユダヤ人の若者2名が何者かに暴行を受け、持っていた携帯電話機を強奪された。警察は本件をユダヤ人排斥者による強盗事件とみて捜査を進めつつ、同様の事件が発生しないよう警戒を強化している。

(2) BDR県オーバーニュで発生した、侵入強盗事件

15日朝方、邸宅内に顔を覆った3名の男が押し入った。1名が刃物で夫婦と子どもを脅し付けつつ室内に閉じ込めると、犯人らは丹念に邸宅内を物色し、宝石や高級腕時計などを奪った上で家人の車に乗って逃走した。

(3) マルセイユで発生した、無施錠ドアからの侵入強盗事件

17日夜、9区ソルミュール地区の自宅アパートの施錠を忘れテレビを見ていた84歳独居女性の目の前に顔を覆った男2名が現れた。男らは銃で老女を脅し付けると銀行カードの在処を尋ねた。老女が答えずにいると男らは銃床で顔を殴りつける等の暴行を何度も加え、遂には老女の財布と携帯電話を奪って逃走した。老女は肉体的・精神的なダメージを受け病院で治療を受けている。

● 性犯罪

(1) アヴェロン県内で発生した、未成年に対する性犯罪(犯人の逮捕)

3月、県内の小さな町にある自動車学校に勤務する39歳の教官が、職場資料から生徒の電話番号を入手し16歳の少女にアプローチして性的関係を持ち、さらにその後同女の裸の写真

等を脅迫材料として関係を強制していたことが同女の家族の知るところとなり、憲兵隊に逮捕された。捜査の結果、この教官は訴えのあった少女の他にも別の16歳（当時）の生徒とも2年間に及ぶ関係を持っていたことが判明した。さらに、この男が2004年に未成年強姦の罪で有罪判決を受けていた筋金入りの性犯罪者であることも判明した。

● 傷害（邦人被害なし）

（1）ニースで発生した、被害者黙秘の傷害事件

12日の夜、ムーラン地区で25歳男性がスクーターに乗った男に大腿部を銃撃されサン・ロック病院に搬送された。被害者には多数の犯歴があり警察に多くを語らないが、警察は本件を対立抗争とみて犯人特定を急いでいる。

（2）マルセイユで発生した、フリーマーケット前における銃撃事件

14日午後、15区 la Cabucelle で開かれたフリーマーケット会場前において、24歳男性が銃撃され負傷する事件が発生した。警察は本件を「偽ブランド煙草」の密売を巡る対立抗争とみて捜査を進めている。

（3）ニースで発生した、警官に対する公務執行妨害・傷害事件

14日夜、旧市街で男2名による喧嘩が始まったことから通報を受けた警官らが臨場したところ、喧嘩相手に殴られ倒れていた男が突如起き上がりナイフで警官1名の首を切りつけてきた。直ちに男は警官らに取り押さえられ、ナイフは押収された。現場にはパトカー数台が応援に駆け付け、物々しい雰囲気となった。

（4）マルセイユで発生した、銃撃事件

20日未明、13区シャトー・ゴンベール地区を歩いていた46歳の男性が何者かに銃撃される事件が発生した。男性は胸部を撃たれながらも必死で近くのバー店内に逃げ込んだことから、病院に搬送された。警察によると犯人は車に乗った男で、被害者に対し1発銃撃した直後に逃走したこと以外は判明していない由。

（5）トゥールーズで発生した、イスラム教徒妊婦に対する傷害事件

23日朝方、子どもを学校に送り届けたイスラム教徒の妊婦がクロワ・ドラード通りを歩いていたところ、20歳くらいの若者2名がやにわに同女の髪を掴みヴェールを無理矢理引き剥がす等の暴行を加えた。さらに若者らはナイフを取り出して女性を脅し付けイスラム教徒を侮辱する発言をし、同女に精神的苦痛と恐怖を与えた。

● その他特異事件（邦人被害なし）

（1）エロー県リュネルで発生した、特殊窃盗事件（犯人の逮捕）

10日未明、憲兵隊がパトロール中に片方のライトが切れたまま走行している車両を見つけ職務質問をしようとしたところ、運転手が逃走を図った。追跡した憲兵隊員が逃走車を停止させ車内を検索したところ、大量の工具を発見。後の捜査により、この20歳の運転手がマルセイユから盗みをするため出稼ぎに来ていたことが判明。男は逮捕された。

（2）アルプ・ド・オートプロヴァンス県内で発生した、航空機墜落事故

24日午前中、バルセロナ発デュッセルドルフ行きのジャーマンウイングス機が南仏の山岳地帯に墜落する事故が発生し、邦人2名を含む150名の乗員乗客全員が死亡する（公的な死

亡認定時期は未定) 未曾有の航空機事故となった。墜落現場へのアクセスが困難であることから遺体や遺品、機体の回収作業は困難を極めたが、憲兵隊等の献身的な取り組みにより同作業は終盤を迎え、以後はDNA鑑定による遺体確認作業が進められている。本件はマルセイユ共和国検事により捜査が行われている。

(3) ニース空港で発生していた、預け荷物等の窃盗事件(被告への判決)

2010年から2013年に掛けてニース空港第2ターミナルで観光客の荷物141ケースを盗んだ罪で逮捕済の48歳の男が、23日に執行猶予付懲役2年の判決を受けた。これまで男の自宅からは2,787個の「戦利品」が押収されており、窃盗総額は14,000ユーロに上る。憲兵隊は男に対する取り調べの他、押収品の返還に向けた被害者特定作業に多くの時間を費やした由。

(4) BDR県内で連続発生した、ATM機からの現金窃盗事件

31日未明、現金自動支払機を狙った窃盗事件が20分間に3件発生した。犯人グループが本件連続犯行後にバール・エタングで乗り捨てたとみられる焼却済BMWも発見されており、憲兵隊は時間的・場所的接着性の他、犯行対象が同じ銀行の機械であることや犯行手口(バール使用によるこじ開け)が同一であることから本件を同一グループによる連続犯行と認定して捜査を進めている。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。